

(5) 英語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—  
 表 現：表現の能力  
 理 解：理解の能力  
 言・文：言語や文化についての知識・理解

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)
聞くこと	1	(1) Thank you. に対して正しく応答する。	理解	80.0	70.5
		(2) 人称代名詞を用いた疑問文に正しく答える。	理解	60.0	74.5
		(3) or を用いた疑問文に正しく答える。	理解	60.0	71.7
	2	(1) まぎらわしい数字の発音を聞き分ける。	理解	75.0	77.7
		(2) 状態や数を正確に聞き取る。	理解	75.0	73.8
		(3) 曜日を正しく聞き取る。	理解	75.0	82.7
		(4) 2人の人間の動作や状態を聞き分ける。	理解	75.0	96.7
3	まとまりのある英文を聞いて概要を理解する。	理解	60.0	55.9	
書くこと	4	(1) 現在進行形の文を書くことができる。	言・文	55.0	56.0
		(2) 三人称・単数・現在形の文を書くことができる。	言・文	50.0	32.1
		(3) 適切な be 動詞を書くことができる。	言・文	60.0	57.3
		(4) 過去の否定文を書くことができる。	言・文	55.0	35.7
読むこと	5	(1) まとまりのある英文を読んで要点を把握する。	理解	75.0	94.0
		(2) まとまりのある英文を読んで要点を把握する。	理解	65.0	75.3
		(3) まとまりのある英文を読んで要点を把握する。	理解	55.0	54.0
	6	(1) やや長い英文を読んで要点を把握する。	理解	70.0	68.0
		(2) 対話文を読んで詳細を把握する。	理解	65.0	83.3
書くこと	7	(1) 対話に合う過去進行形の文を書くことができる。	表現	70.0	77.4
		(2) 対話に合う Let's を用いた文を書くことができる。	表現	70.0	79.4
		(3) 対話に合う命令文を書くことができる。	表現	70.0	86.0
読むこと	8	① 場面に合う適切な英文を選ぶことができる。	理解	70.0	62.3
		② 場面に合う適切な英文を選ぶことができる。	理解	60.0	69.2
	(2) 場面に応じた対話の流れを理解することができる。	理解	50.0	83.0	
書くこと	9	(1) How many を用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	50.0	64.4
		(2) What を用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	55.0	22.9
		(3) Where を用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	50.0	15.8
	10	指示に従って、まとまりのある英文を書くことができる。	思考 表現	40.0	20.1

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内				
			青森市	東郡	五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	(1)	Thank you. に対する正しい対応	80.0	69.2	69.3	67.9	71.5	69.6	77.2	70.2
	(2)	人称代名詞を用いた疑問文への応答	60.0	77.2	77.7	70.6	73.4	72.5	75.0	73.4
	(3)	or を用いた疑問文への応答	60.0	78.1	78.5	73.8	67.7	68.5	69.1	66.4
2	(1)	まぎらわしい数字の発音の聞き分け	75.0	77.9	78.3	71.7	80.3	80.5	77.8	81.3
	(2)	状態や数の正確な聞き取り	75.0	83.1	83.9	71.1	71.4	74.0	65.0	72.3
	(3)	曜日の正しい聞き取り	75.0	84.3	84.6	80.2	79.5	79.5	78.1	80.1
	(4)	2人の人間の動作や状態の聞き分け	75.0	97.4	97.3	97.9	96.4	97.9	95.9	95.3
3		まとまりのある英文の概要理解	60.0	55.2	55.8	46.5	52.6	54.4	50.6	52.0
4	(1)	現在進行形の文	55.0	61.9	62.1	58.3	49.9	54.2	45.6	48.4
	(2)	三人称・単数・現在形の文	50.0	37.8	38.0	34.2	32.9	32.2	32.8	33.5
	(3)	適切な be 動詞	60.0	63.5	64.1	55.6	55.5	57.9	53.8	54.4
	(4)	過去の否定文	55.0	54.3	55.0	44.9	30.7	32.9	29.7	29.3
5	(1)	まとまりのある英文を読んでの要点把握	75.0	95.4	95.4	94.7	93.3	92.9	92.5	93.9
	(2)	まとまりのある英文を読んでの要点把握	65.0	78.8	78.9	77.0	73.2	75.6	70.9	72.4
	(3)	まとまりのある英文を読んでの要点把握	55.0	58.4	58.4	58.3	51.9	60.0	43.8	49.1
6	(1)	やや長い英文を読んでの要点把握	70.0	72.0	72.2	68.4	67.1	65.6	68.1	67.8
	(2)	対話文を読んでの詳細把握	65.0	85.4	85.7	81.3	84.1	87.7	79.7	83.2
7	(1)	対話に合う過去進行形の文	70.0	80.3	80.5	77.5	74.4	70.9	76.9	76.2
	(2)	対話に合う Let's を用いた文	70.0	82.5	82.7	80.7	81.3	83.4	79.1	80.5
	(3)	対話に合う命令文	70.0	83.7	83.7	84.0	89.2	91.1	88.1	88.0
8	(1)	① 場面に合う適切な英文の選択	70.0	72.3	72.8	65.2	62.6	62.4	60.3	63.9
		② 場面に合う適切な英文の選択	60.0	62.8	63.0	59.9	82.6	81.7	82.5	83.5
	(2)	場面に応じた対話の流れの理解	50.0	82.9	83.0	81.3	85.7	82.6	85.6	87.0
9	(1)	How manyを用いた日本語に合う英文	50.0	68.4	68.5	67.9	66.4	66.7	70.6	64.0
	(2)	What を用いた日本語に合う英文	55.0	20.1	20.6	12.3	32.6	33.1	34.4	31.3
	(3)	Where を用いた日本語に合う英文	50.0	25.1	25.4	20.3	13.7	17.5	12.5	10.9
10		条件に合うまとまりのある英文	40.0	26.2	26.4	23.5	15.9	21.0	16.3	11.4
教 科 全 体			62.8	67.9	68.2	63.9	64.0	65.0	63.4	63.6

※ 斜線部分の問題については、当該地区において、未習事項が含まれていたためである。

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
65.3	68.3	63.7	53.6	65.1	74.2	74.2	79.6	71.7	65.4	63.8	70.3	74.2	76.5	66.3	70.5
70.7	72.9	65.7	65.3	71.6	73.5	73.9	78.3	71.0	75.2	76.5	71.3	76.1	77.1	72.7	74.5
70.5	73.2	66.0	64.7	68.5	69.8	72.1	74.9	66.2	65.8	63.8	71.8	71.5	70.6	74.6	71.7
76.4	79.1	72.3	73.1	71.6	77.5	74.9	85.9	75.6	72.5	74.1	67.8	78.7	80.3	73.4	77.7
69.7	70.3	70.3	67.2	69.1	70.0	68.8	78.3	67.0	65.9	66.8	63.4	74.3	73.4	77.2	73.8
82.5	83.9	81.3	80.2	79.5	82.3	82.6	84.8	80.9	77.8	78.6	75.7	84.3	84.9	82.3	82.7
96.8	96.5	97.4	97.2	97.6	96.7	96.3	96.6	96.9	95.2	95.7	93.6	96.6	96.7	96.2	96.7
					56.0	59.8	62.2	50.1	52.7	52.4	53.5	59.0	60.7	53.1	55.9
59.9	61.4	51.3	56.0	65.7	48.9	51.6	54.6	44.2	47.8	51.0	38.6	57.4	58.7	52.7	56.0
25.8	29.0	12.7	24.5	26.3	33.5	34.1	37.4	31.2	19.5	20.4	16.8	33.7	37.9	19.6	32.1
58.7	63.9	43.8	57.6	51.7	53.2	51.9	51.7	55.0	45.7	46.6	43.1	56.9	59.9	46.8	57.3
32.2	35.9	19.3	32.8	28.1	23.8	25.1	29.3	20.2	19.4	21.3	13.9	35.9	34.8	39.7	35.7
93.6	94.7	91.4	93.8	90.8	93.9	95.4	94.2	92.7	92.4	92.5	92.1	93.9	94.4	92.2	94.0
72.3	73.9	67.1	66.3	76.1	73.9	77.7	75.2	70.3	72.5	72.4	72.8	77.0	77.3	76.3	75.3
51.4	52.1	48.1	50.2	52.9	51.0	55.2	55.5	45.6	52.7	52.9	52.0	55.4	56.1	53.1	54.0
67.9	70.6	57.1	71.8	63.0	65.9	70.0	67.8	61.7	59.5	59.7	58.9	68.4	68.9	66.7	68.0
81.1	84.7	74.1	77.4	76.1	83.3	84.0	86.8	81.0	78.9	77.7	82.2	83.7	84.4	81.3	83.3
78.6	80.9	70.6	83.6	71.6	72.5	71.2	79.0	70.4	69.6	69.6	69.8	80.6	81.5	77.5	77.4
70.5	74.9	57.1	70.6	64.8	79.1	80.4	82.3	76.6	73.5	75.2	68.8	84.1	85.6	78.9	79.4
83.1	86.0	71.5	85.4	80.4	87.4	87.8	90.4	85.7	87.0	88.6	82.2	87.8	90.7	78.1	86.0
46.9	50.2	37.9	43.3	44.0	62.1	62.2	68.5	59.0	56.7	58.0	53.0	66.6	66.3	67.6	62.3
51.0	56.2	36.7	44.0	48.0	77.5	76.4	85.0	74.9	77.5	79.6	71.3	74.6	81.6	50.9	69.2
77.7	79.8	71.8	77.7	74.0	86.8	91.1	90.4	83.2	83.1	83.2	82.8	84.3	85.7	79.3	83.0
49.1	54.5	34.3	44.9	44.3	67.1	61.1	72.0	69.4	62.3	61.9	63.4	70.6	74.9	56.2	64.4
22.2	23.3	18.2	15.2	28.4	22.1	20.8	28.6	20.0	19.5	20.2	17.3	22.6	26.5	10.0	22.9
16.3	18.2	9.5	14.6	16.2	10.8	13.0	14.5	7.3	5.7	6.5	3.5	13.9	14.3	12.6	15.8
22.0	26.0	14.4	17.3	16.5	16.6	16.2	22.6	14.1	10.1	10.4	9.4	19.9	22.0	12.9	20.1
61.2	63.9	54.0	58.8	59.3	63.1	63.4	67.6	60.8	59.4	60.0	57.7	66.1	67.6	61.0	64.5

## ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
聞くこと	8	2(1)、2(3)、 2(4)	3	75.9	70.0
読むこと	8	5(1)、5(2)、 6(2)、8(2)	5(3)、8(1)①	73.6	63.8
書くこと	11	7(1)、7(2)、 7(3)	4(1)、4(2)、 4(3)、4(4)、 9(2)、9(3)、 10	49.8	56.8

内容・領域別にみると、通過率の高かったのは、「聞くこと」「読むこと」である。

通過率が低かったのは、「書くこと」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは「聞くこと」「読むこと」であり、同程度のものはなく、下回ったのは「書くこと」である。

## エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
表現の能力	7	7(1)、7(2)、 7(3)	9(2)、9(3)、 10	52.3	57.9
理解の能力	16	2(1)、2(3)、 2(4)、5(1)、 5(2)、6(2)、 8(2)	3、5(3)、 8(1)①	74.7	66.9
言語や文化 についての 知識・理解	4		4(1)、4(2)、 4(3)、4(4)	45.3	55.0

観点別にみると、通過率の高かったのは、「理解の能力」である。通過率が低かったのは、「表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは「理解の能力」であり、同程度のものはなく、下回ったのは「表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」である。

## オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
1	(1)	70.5	80.0	Fine, thank you.(15.5)、That's right.(7.5)、 Me, too.(3.5)
4	(2)	32.1	50.0	play(50.5)、is(5.5)、playing(3.0)
	(4)	35.7	55.0	was(29.5)、am(18.0)、do(9.5)
9	(2)	22.9	55.0	are doing(26.5)、疑問詞(What)なし(9.0)、are do(6.5) 無答(6.5)、will do(6.0)
	(3)	15.8	50.0	疑問詞(Where)なし(32.0)、無答(9.0)、was go(5.0) was going(3.0)
10		20.1	40.0	3文書いているが、どこかに間違いがあるもの(75.5) 1～2文のみ書いているもの(4.0)、無答(1.0)

- 1(1)について

全問題中一番高い設定通過率80%として出題した問題であるが、通過率は70.5%と低かった。誤答の原因として、相手が最後にthank youと言っていることにつられて、thank youが入っている文を選んだのではないかと考えられる。また、「That's right.」(7.5%)、「Me,too.」(3.5%)という誤答例もあることからthank youに対してYou're welcome.という応答が十分理解されていないことも考えられる。

- 4(2)について

誤答の原因として、三人称単数現在のsが欠落している「play」と解答したものが50.5%と半数を占めたことから、My motherという主語が三人称単数であることと、三人称単数現在のsが十分理解されていないことが考えられる。

- 4(4)について

誤答の原因として、「was」と解答したものが29.5%あったことから、一般動詞過去形の否定文の理解が(studyという単語に注目すれば、was, amといったbe動詞は不適である)不十分であったことが考えられる。また、現在形の「do」と解答したのも9.5%あったことから、過去を表すlast nightにも理解が不十分であったことも考えられる。

- 9(2)について

誤答の原因として、are ingと進行形を使って解答したものが26.5%あり、習慣を表すon Sundaysの理解が不十分であったことが考えられる。

- 9(3)について

設定通過率50.0%に対して、通過率15.8%と全問題中一番低かった問題である。誤答の原因として、「疑問詞「どこへ」(Where)の欠落」(32.0%)と「無答」(9.0%)があげられる。また、「Where was she go?」(5.0%)といったbe動詞と一般動詞の混在した英文が見られることから、5W1Hの疑問詞がしっかりと理解されていないこと、be動詞と一般動詞のそれぞれの疑問文の作り方について十分理解がされていないことが考えられる。

● 10について

昨年度に続きまとまりのある文を書く力を見るため3文を書く問題とした。通過率は20.1%（昨年度30.1%）と下がってはいるが、無答は1.0%（昨年度4.0%）と減り、誤答ではあったが意欲的に3文書いていたものが75.5%（昨年度58.0%）と上がっている。また、3文中2文正解している割合は21.5%、1文正解は18.5%である。誤答の原因として、is like, is studyといったbe動詞と一般動詞の混在、また、三人称単数現在のsが欠落している（29.0%）、studys（4.5%）、studies（3.5%）といったつづりの間違いもあり、三人称単数現在形の理解が不十分であることが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、例年通り「書くこと」である。最終的には、新学習指導要領の「書くこと」に関する指導事項として、自分の考えや気持ちなどが相手に正しく伝わるように、文と文のつながりに注意して文章を書くこととあるので、その力を育成する取組が大切になるわけだが、今年度の、4、10の問題の誤答例から見ても、今一度、基本的な文法事項と5W1Hで始まる疑問文とその応答の仕方の定着について考えることが急務である。

実際の授業においてもコミュニケーション能力の育成をめざして、様々な工夫を凝らした活動が行われている。しかし、モデル表現を模倣して何とか1時間を切り抜けて終わったり、ハンドアウトに印刷された基本文を1～2度読んで終わったりしているケースはないだろうか。課題は「書くこと」であり「定着」である。

今回の個々の問題に含まれる基本的な文法事項は進行形、三人称単数現在のs、5W1Hの疑問詞、be動詞、一般動詞の過去の疑問文・否定文等である。出題範囲を概ね2学年の1学期までと設定していることも含めて、基本的な文法事項であると言える。

**指導のポイント**

〈基本的な文法事項の定着をめざして〉

- ・ Warming upで5W1Hの疑問文を用いた応答を、教師から生徒だけではなく、様々な方向、方法でやりとりし、口頭での定着を図る。さらに応答時にプラス1文を習慣づけさせ自然なコミュニケーションの雰囲気作りに留意する。
- ・ ターゲットセンテンスの書き取りやディクテーションをこまめに行い、個別指導に役立つ。
- ・ 新出事項の導入を既習事項との関連で行うようにする。その際に場面設定をしっかりと行う。
- ・ コミュニケーション活動を行う場合には、ねらいとする文型や発表の練習時間をしっかりと確保し、自信を持たせて発表させる。また、テーマを生徒の興味・関心に基づいて設定したり、単語や文型を事後に確認したり、作品へのコメント、他の生徒への紹介等、意欲を高める工夫をする。単語や基本文の定着のために、青森県教育委員会発行の「青森県版中学校英単語集」の効果的な活用が望まれる。
- ・ まとまりのある英文を書く際にも、最終的には1文1文に含まれる文法事項の確認をし、合わせて手順や基本構造（パラグラフの種類にもよるが、基本は〔topic sentence → supporting details → conclusion〕）を指導する。

それでは上記を踏まえて、新学習指導要領との関連から「初歩的な英語を使って、まとまりのある文章を書く力の育成」のための指導例を挙げてみる。

**指導例** 〈初歩的な英語を使って、まとまりのある文章を書く力の育成〉

指導過程をいくつかの手順に分け、各段階において適切なフィードバックを行いながら、生徒のつまずきを解消する指導・支援を行うことが大切である。

**【指導の手順例】** (◇…つまずき解消のための指導・支援、◆フィードバック)

① テーマについて考える

- ◇ アイディアマップ (思いついた言葉をつなげさせる。)  
(「それで?」「なぜ?」「例えば?」などの問いかけで、理由や説明を引き出す。)
- ◇ モデル文の提示
- ◆ 教師によるフィードバック  
(難しい表現を、既習の簡単な単語や言い回しで置き換えさせる。)

② 下書きをする

- ◇ 語順・文構造の指導 (テーマにかかわる言語材料を扱ったWarming up)
- ◇ テーマに関連した表現や語彙の提示
- ◇ 接続詞・副詞・代名詞の提示
- ◆ 教師によるフィードバック (自分の誤りや改善すべき点に気付かせる指導を行う。)

③ 修正・追加を行って、完成させる

- ◇ 語順・文構造の指導 (下書きで間違いが多かった言語材料を扱ったWarming up)
- ◇ 文と文のつながりについてのアドバイス
- ◆ 教師によるフィードバック (賞賛・励まし)

④ 発表 (英語通信、スピーチなど)

- ◆ 生徒同士のフィードバック  
(読み手を意識して書くことの大切さに気づかせ、次回に役立てる。)

初歩的な英語を使って、まとまりのある文章を書く力を育成するためには、生徒にとって身近で興味深いテーマを設定し、書くプロセスにおけるフィードバックを重視した指導を段階的に行う必要がある。また、語順や文構造の指導、モデル文・表現集の提示といった指導の手立てにより、生徒のつまずきを解消する支援を行い、書くことへの抵抗感を和らげることが大切である。

個々の問題の誤答傾向からみた課題としては、三人称単数現在の s、5W1Hの疑問詞、be 動詞と一般動詞の使い分け、時制についての理解が不十分であることが挙げられる。

今後の学習指導においては、主語と動詞の関係、疑問文・否定文の作り方、三人称単数現在の s など文法事項の指導について、小テスト等により何度も繰り返して指導することで定着を図る必要がある。

## 指導例

### 1 三人称単数現在の s について

- (1) 絵や写真を使って、第三者を紹介する場面設定を行う。  
第三者を紹介するには、必然的に He likes～. She plays～. といった英文で紹介するとともに、質問する生徒も Does he～? Does she～? といった英文を使うことになる。
- (2) ペアワークにおいても、お互いのことについての問答だけでなく、第三者について、自分の思っていることを表現する。
- (3) 疑問詞と does を含む疑問文に対して、動詞に s をつけて答えるような問答を毎時間行う。[例] What does Ken do after school? — He plays tennis.

### 2 主語と動詞の関係、疑問文・否定文の作り方について

- (1) 小テストで、一つの基本文を様々に変化させた問題を作成する。

例) 基本文 You study English every day.

- 1 基本文を疑問文に
- 2 基本文を否定文に
- 3 主語を You から He に変えて
- 4 every day を last night に変えて過去形の文に
- 5 every day を next Wednesday に変えて未来の文に

## キ まとめ

「聞くこと」、「読むこと」については昨年度同様、おおむね良好である。今年度はさらに、まとまりのある英文を読んで要点を把握したり、流れを理解したりすることについても良い結果が出ている。「書くこと」については不十分な結果となり、特に複数の文を書く力に課題を残す結果となった。

今後は、「書くこと」の指導について、正しい語順や語法を用いて書くことに留意しなければならない。日常的に基本的な英文を繰り返し復習する指導過程を構成するよう心がけ、さらに書き取りやディクテーション等の小テストで定着を図り、最終的には3文～5文からなるパラグラフを書く活動を充実させる必要がある。

「読むこと」については、基本となる単語については県で発行している「青森県版中学校英単語集」の活用を充実させて定着を図り、英語の文章構成の特徴を理解させながら、その文章の「要点」、「タイトル」、「内容との整合性」などを問う活動を通して力を付けさせたい。オーラルイントロダクションに工夫を加える形をベースにし、目的のある読解の活動にしていく必要がある。

4領域のバランスのとれた能力を育成するために、生徒の実態に配慮し、毎時間の目的は何か、身に付けさせたい力は何かをはっきりとさせた上で、適切な題材に変化を持たせて取り上げ、生徒が主体的に活動したり、発信したりするよう工夫していく必要がある。

最後に、小学校の新学習指導要領が平成23年度から全面実施になることから、小学校教員は懸命に外国語活動に取り組んでいる。中学校教員においては、その趣旨を踏まえて連携をとりながら、外国語活動の指導内容を理解・把握し、中学校英語への円滑な接続に配慮することが肝要である。